

～A班 班活動～

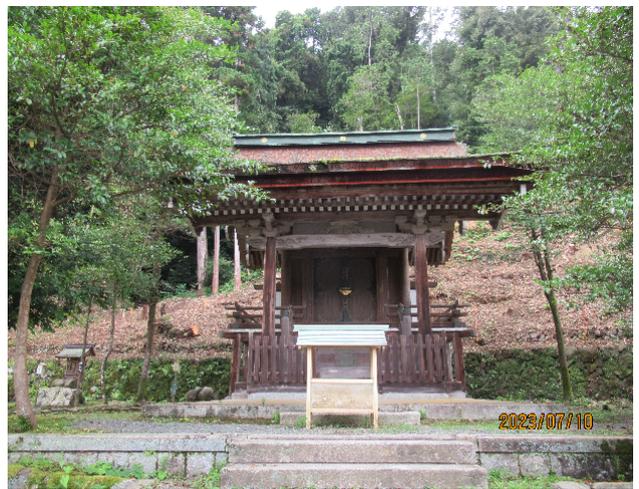
テーマ：歴史と文学を訪ねて － 月読神社にて日本書紀思考

日時：7月10日(月) 12:35～14:30

京都市西京区松尾山麓にある月読神社を訪ねました。

日本書紀によると、神功皇后が新羅討伐の際、お腹に石(月延石)を当て、冷やすことで出産を遅らせ討伐を達成。筑紫に凱旋後に応神天皇を無事出産。この「月延石」は筑紫の国にあったが、落雷に寄り3つに分かれたそうです。飛鳥時代、舒明天皇が割れた石の一つを持ち帰り、京都に奉納されたようです。現在はここ月読神社にお祀りされており、安産の御利益で篤く信仰されています。

○鳥居を経て門を潜り抜けて、本殿へ(赤い鳥居は工事中でした)



<本殿は江戸時代の建立、檜皮葺>

○本殿右にある「月延石」と白い祈願石



「月延石」を撫でて御神威を受け取ります
* 奉納されている白い祈願石は安産ご祈祷
の撤下品のひとつです

<石を撫でて御神威を賜りました>

○本殿左にある解穢の水



山中より流れる水、自己の罪・穢れを除くと言われていています。とても冷たく、気持ちよかったです

○祈祷殿



本殿前にりっぱな祈祷殿があります

○本殿右にある聖徳太子社



月読命を崇敬した聖徳太子の徳を称え祀ったと言われてます

○本殿左にある御船社



海上交通安全、水難除。
御祭神は天鳥舟命 (アメノトリフネノミコト)

○「月延石」を撫で終えて

- 松尾山の麓にひっそりとお祀りされており、華やかさはないものの、背後には松尾山の深い森が広がり、靈験あらたかな雰囲気にも包まれ、心静かなひと時を過ごす事ができました。
- 個人的には、解穢の水にて、穢れが取り除かれたと思いました。
- また、平日午後の訪れにも関わらず、女性の参拝者がひっきりなしに訪れており、安産の御利益に篤く信仰されているのがよくわかります。
- 帰りには、松尾大社をお参りしました。

(文責:班長)